

|    |        |     |   |   |     |
|----|--------|-----|---|---|-----|
| 17 | 食生活と農業 | 学習日 | 月 | 日 | 名前： |
|----|--------|-----|---|---|-----|

1.三大穀物の生産と輸出

① コメ

世界の米の生産量 ... 7億5547万トン

世界の米の輸出量 ... 4452万トン

輸出されるのは約（1                   ）%

生産量 中国（209）、インド（177）、インドネシア（54）、バングラデシュ、ベトナム

② 小麦

世界の小麦の生産量 ... 7億6576万トン

世界の小麦の輸出量 ... 1億9678万トン

輸出されるのは約（2                   ）%

生産量 中国（133）、インド（103）、ロシア（74）、アメリカ、フランス

③ トウモロコシ

世界のトウモロコシの生産量 ... 11億4849万トン

世界のトウモロコシの輸出量 ... 1億6320万トン

輸出されるのは約（3                   ）%

生産量 アメリカ（347）・中国（260）、ブラジル（101）、アルゼンチン、ウクライナ

2. 耕作限界

作物を栽培するには自然条件が必要

① 気温

植物が発芽する・生育するには一定の気温が必要。この数値を（4                   ）限界という

最暖月平均気温が10°C以下だと一般に耕作はできない = ほぼ寒帯気候の気候と同じ

積算温度 ... 生育中の毎日の平均気温を全て足したもの

小麦 = 1600、ひまわり = 2000、コメ = 2500など

② 降水量

植物が発芽する・生育するには一定の降水が必要。この数値を（5                   ）という

年降水量が

0 ~ 250mm → 農業はできない（砂漠気候）

250 ~ 500mm → 牧畜ができる（ステップ気候）

500 ~ 1000mm → 畑作ができる

1000mm ~                   → 稲作ができる

以上のことから、作物の生産分布は（6                   ）と関連が深いことがわかる

3. 自給的農業と企業的農業

自給的農業 ... 自分達で（その地域で）消費するために生産する

→ 大規模な農業にはなりにくい

企業的農業 ... 作物を商品として販売するために生産する

→ 大規模な農業になりやすい

● 小規模な農業とは

小さい土地を一定の人数で耕す

→ 狭い土地でたくさんの作物を取りたい = 土地の生産量は大きい

これを（7                   ）が高いという

そのために、化学肥料や農薬などをたくさん使い、年に何度も生産する（多毛作、多期作）が必要

● 大規模な農業とは

大きい土地を一定の人数で耕す

→ 少ない人数でたくさんの作物を取りたい = 一人当たりの生産量は大きい

これを（8                   ）が高いという

そのために、機械を使い、自動化された農業が必要

日本とオーストラリアの違い

教科書の写真を見て、日本・オーストラリアが今日学んだ農業のうち、どのような農業をおこなっているのかを考えてみましょう。